

(二〇一七年度)

1 国 語 問 題 (六〇分)

(この問題冊子は19ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 三、試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能やスマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
- 五、解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
- 七、訂正する場合は、消しゴムでいねいに消すこと。消しきらずはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
- 九、試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
- 十、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十一、問題冊子は必ず持ち帰ること。

—
次の文章を読んで、後の問に答えよ。

まず西洋人の眼に日本人の罪の感覚があまり深刻とは映らない事実から考えてみよう。これは得てして西洋人が罪悪感をもつばら個人の内部の問題であると考え勝ちなのに対し、日本人にそのような考えがないことが原因しているのである。もちろん日本人が罪悪感を持たないなどということがあろうはずがない。ただ日本人の罪悪感、自分の属する集団を裏切ることになるのではないかと、この自覚において、最も尖鋭せんえいにあらわれることが特徴的である。実は西洋人の罪悪感の場合であつても、その根底には裏切りの心理があると仮定することができるが、彼らはそのことをふつう意識はしない。これは彼らが古来何世紀もの間キリスト教によつて教化された結果、はじめ彼らの道徳意識の中でも重要な役割を演じていたにちがいない集団が神にとつて代られ、ついで近世以来この神も蒸発して個人個人の意識だけが問題にされるようになったからである。それでも精神分析の知見によれば、西洋人の罪悪感、精神内部に形成されている超自我に背くことによつて生れる、というのであるから、裏切りの要素が全くなつてしまつてはなさそうである。もつともこの超自我はいわば精神内部の一機能であると定義されているのであるから、その中に両親の影響などもともと個人的ものが含まれていたとしても、その性格は本質的には非個人的なものである。したがつて彼らの罪悪感1の中では裏切りの心理が痕跡に留まり、強く意識されることがなくなつてゐるのである。

これにひきかえ日本人の場合は、上述したごとく、自分がそこに属している人たちの信頼を裏切るといふことに最も強く罪悪感を感じるのであるが、このことをいいかえて、罪悪感2は人間関係の函数かんすうであるといつてもよいであらう。例えば、相手に自分が一番近い身内殊に親の場合は、普通あまり罪が自覚されないが、これは両者が密着して、どんなに裏切つても許されるという甘えがあるからであると思われる。しかし「死んで知る親の恩」といふように、親の死後これまで抑圧されていた罪の意識が自覚されることはある。一般的にいえば、日本人は裏切りが関係の断絶に導きやすい義理的な関係の中で最も頻繁に罪悪感を経験する。したがつて前に説明した「すまない」³という言葉がその場合の罪悪感の告白として最もふさわしいものとな

る。なお罪の感覚そのものは、しては「いけない」ことを仕出かした時に始まるといえるが、しかし「いけない」ことをして「すまない」と思うのでなければ、内面的な罪の自覚とはならないと一般に考えられている。それ故「すまない」という罪悪感⁴は当然実際の謝罪行為に直結する。このように日本人の罪悪感⁴は、裏切りに発して謝罪に終るといふ構造を極めて鮮明に示しているが、これこそ実は罪悪感の原型なのであって、ベネディクトにこのことが見えなかったのは、まさに彼女の文化的偏見の故であるといわねばならないと思うのである。

以上のべたことと関連して、日本に関東大震災以来在住しているカトリック司祭ヘルマン・ホイベルス師が、日本ではお詫びがどんなに魔術的な力をもっているかがわかった、とのべていることは大変面白い。面白いというのは、日本人に罪の赦しを説くべくやって来たキリスト教の宣教師が、日本人の間では心から詫びれば容易に和解が成立するということを知って、感心しているからである。恐らくこのことはホイベルス師ばかりでなく、それ以来の外国人にも気付かれていることなのである。そしてそのことこそもしかすると、日本人の罪の意識は乏しいという俗説の原因となつているのかもしれない。なお私がかつてアメリカのある精神科医から聞いた次のようなエピソードも、以上のべたホイベルス師の経験を裏書きするものである。彼はある時何かの手續上の不備で出入国管理局の役人に咎められた。彼は止むを得なかつた事情を縷々説明したが、きいてもらえない。ほとほと困り果てた揚句、「アイム・ソーリ」(Im sorry)といったところ、急に相手の表情が變つて簡単に許してくれたというのである。この場合、彼のいったIm sorry は日本語の「すまない」と決して同じではないが、役人がそれを「すまない」という謝罪と取つたことは明らかである。この話を彼は、実に日本人は不思議な国民だといいながら話したが、もちろんこれは西洋人の心理の不思議さについても同時に示唆しているといわねばならないだろう。というのは西洋人は、ベネディクトが罪の文化の住民と評しているにも拘らず、あるいは少し皮肉ない方をすれば、むしろ罪の文化である故に、一般にお詫びをしたがらない人種だからである。そのことは最近、海外経験者がふえるにつれて漸く認識されてきた事実なのである。

私はここでラフカディオ・ハーンが「停車場で」といふ隨筆の中でのべている物語りを紹介しておきたいと思うが、それは日

本人の罪に対する態度を實に見事に描きだしていると考えられるからである。

この話は、強盗をしていったん擱まつた後、巡査を殺して脱走していたある犯人が、再び擱まつて熊本に護送されて来たところから始まっている。 駅頭につめかけた群集を前にして、護送して来た警部が殺された巡査の未亡人を呼び出す。その女の背には小さな男の子が負ぶさっていたが、その子に警部が語りかけて、これがあなたのお父さんを殺した男ですよ、と告げたのである。すると子供は泣きだしたが、引続いて犯人が、「いかにも見物人の胸を震わせるような、悔悛の情きわまつた声」で、次のように語りだした。「堪忍しておくんせえ。堪忍しておくんせえ。坊ちゃん、あつしゃア、なにも怨み憎みがあつてやつたんじゃねえんでござんす。ただもう逃げてえはつきりに、つい怖くなつて、無我夢中でやつた仕事なんで。……あつしゃア坊ちゃんに、なんとも申訳のねえ、大それたことをしちめえました。ですが、こうやつて今、うぬの犯した罪のことで、これから死に行くところでござんす。あつしゃア死にてえんです。よろこんで死にます。だから坊ちゃん、……どうか可哀そうな野郎だとお思いなすつて、あつしのこたア、堪忍してやつておくんせえまし。お願えでござんす……。」やがて警部は犯人を連れてその場を立ち去つたが、するとそれまで静まり返っていた群集が「俄かにしくしく啜り泣きをはじめ、」そればかりか附添いの警部の眼にも涙が光っていたというのである。

ラフカディオ・ハーンは以上の光景に接して深く感銘し、「どんな日本人でもその精神のうちの大部分を占めている、我が子にたいするこの潜在的な愛情、これに訴えて、罪人の悔悛を促したという点に最も深い意義を認めている。彼のこの観察は正しいであろう。ただ今一步解釈をすすめれば、この場合犯人は子供を可哀想と思うと同時に、自分も実はこの子供と同じくみじめであることを悟つたといえないであろうか。 彼はいわばこの際子供と同一化していたのである。大体「すまない」という言葉には、度々説明したように、相手の好意を懇願する意味が含まれている。「申訳ない」といつても同じことである。それはいいかえれば、甘えられた義理ではないが、しかし許してほしいという意志表示である。 このように日本では、謝罪に際し相手に対し本質的には幼児のごとく懇願する態度を取り、しかもそのような態度は常に相手に共感を呼び起こすので、あなたもお詫びが魔術的な効果を持つように、外国人には見えるのである。上記の話で見物の群集が啜り泣いたのも、ただ子供の

ためばかりでなく、悔悛している犯人のためでもあったといつて過言ではない。むしろ群集の眼には、子供も犯人もこの際渾然一体となつて映つていたという方がより正確であろう。なおこの話は明治初年のことであり、昭和の今日ではこのように純粹な人情劇を現実に見撃する機会は極めて稀になつてゐる。しかしそれでもなお同じような心理が日本人のうちに、もしそれほど意識的であれば無意識のうちに、働いてゐると信じられるのである。

(土居健郎「甘え」の構造」より)

〔注〕超自我：精神分析の用語。無意識・自我などとともに、精神を構成するとされる、良心の機能を営むもの。

前に説明した「すまない」：筆者は問題文の前の部分で、「すまない」という言葉は元來、動作や仕事が「済む」の否定形「済まない」である、という考えを展開している。

ベネディクト：Ruth Benedict (1887-1948)。アメリカの文化人類学者。

ラフカディオ・ハーン：Lafcadio Hearn (1850-1904)。小泉八雲。作家・英文学者。一八九〇(明治二三)年来日。

問一 傍線部「罪悪感の中では裏切りの心理が痕跡に留まり、強く意識されることがなくなつてゐる」理由の説明として、もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 社会の強い意志に背くのは罪だが、キリスト教的文化の中では、神と個人の関係が中心であるから。
- b 超自我に背くという罪の自覚があるのは事実だが、それ自体が心の役割の一つとみなされるから。
- c 自分自身に背くという罪の意識は、個人が前面に出された結果、育つた環境による影響が付随的なものになるから。
- d 役割が減少したとはいえ、心理的な集団に背くのは罪ではあるが、それは無意識の領域のことだから。

問二 傍線部2「罪悪感は人間関係の函数である」について、筆者の考えを示す具体例として、不適切だと思われるものを次の中から一つ選べ。

a 友人Aは進路の問題に関して以前から父親との確執に悩んでいたが、母親が亡くなったことをきっかけに故郷に帰り、家業を継ぐことを決心した。

b 地方から東京にでてきたばかりのサークルの友人Bを励ますため映画に行く約束をしたが、当日友人Bはことわりの連絡もしないまま、約束の場所に来なかった。

c 父親の知人の紹介で希望する会社に就職することができた友人Cは、従事している仕事に興味をもつことができなくなったが、辞めることもできず悩んでいる。

d 知り合いのDさんは、両親を幼い頃に失ったこともあり、苦勞しながら育ち、現在の家庭を築いたが、仕事がいいつも忙しく家庭を省みる暇がないことを悔いている。

問三 傍線部3「『すまない』という言葉がその場合の罪悪感の告白として最もふさわしいものとなる」理由の説明として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 相手との関係において、抑えていたことを包み隠さず表現することを示しており、それを詫びることが大事だから。

b 相手との関係において、日本人特有の人情に反することをあらわし、その罪を償うことは決してできないと捉えられるから。

c 相手との関係において、背信を意味し、交流の修復不可能な崩壊を悔いることになるから。

d 相手との関係において、やるべきことをやっていない証であり、迷惑をかけたという気持ちを伝えなければならないから。

問四 傍線部4「裏切りに発して謝罪に終るといふ構造」の説明として、もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 他者との関係性が基礎となっているので、お互いの決め事を逸脱したと感ずることは、その事実を反省し詫びるといふ行為と表裏一体になっている。

b 所属する特定集団が重要なので、集団内の規律を犯しただけでなく、普遍的倫理に背いたという思いがあつて初めて詫びる行為につながっている。

c 外面的行動規範に関する問題なので、禁止事項を守れなかつたという気持ちは一般的に抑えることはできず、その段階からすぐに詫びるといふ行為が生まれることになる。

d 個人の考え方が焦点となつているので、許されることではなかつたと思うことは、普通それを悔いることになり、その延長線上に詫びる行為がある。

問五 傍線部5「日本人の罪の意識は乏しい」といふ俗説の原因となつていられるのかもしれない」の説明として、もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 日本人独特の謝るといふ現象が西洋人の目には特異に映つたので、日本人は過ちといふ明確な概念自体をもたないと解釈してしまつた。

b 日本人が謝る姿勢は多くの西洋人にとっては感心すべき事実であるにもかかわらず、一般的に日本人の文化はキリスト教的文化とは相容れないと捉えてしまつた。

c 日本人が謝ることによつて仲直りしているのを目にした西洋人は、日本人は常時厳しさを要求する神の概念をもたないと考えてしまつた。

d 日本人の赦しの思想が謝ることに依拠していると気づいた西洋人は、日本人にはすでに宗教的寛容の精神があると理解してしまつた。

問六 傍線部6「西洋人の心理の不思議さについても同時に示唆している」とはどういうことか。本文の内容に沿ったもつとも適切な説明を次の中から一つ選べ。

a 過失にいたった事情の説明よりも謝罪の方が大事であるのは理不尽だと考える西洋人の気持ちは、仮に自分に非があると感じてても謝罪を好まない理不尽さも示している。

b 謝罪の言葉が、非を咎める人に突然の変化をもたらすことに不信を覚える西洋人の感性は、罪の文化における謝罪への不信も示している。

c 「すまない」の本来の意味が謝罪になることを奇妙だと感じる西洋人の心情は、特別な場合に限り謝罪するという奇妙さも示している。

d 謝罪さえすれば不備も見逃すという役人の対応が不可解だという西洋人の捉え方は、重大な過失がある場合にも説明はするが謝罪しないという不可解さも示している。

問七 傍線部7「日本人の罪に対する態度を実に見事に描きだしている」のは、ハーンが取り上げたエピソードのどのような点だと考えられるか。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 突然被害者の子供に会った犯人が、即座に自分が奪った命の重さを感じ取っている点。

b 被害者の子供に会ったのが群集の前であったことから、犯人が犯したことの重大さを実感した点。

c 犯人の自己弁護が、被害者の子供に詫びることをとおしてなされている点。

d 犯人が被害者の子供にただひたすら赦しを請い、それが群集の共感を呼び起こした点。

問八 傍線部 8「自分も実はこの子供と同じくみじめであることを悟った」と筆者が考えた理由としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 償いきれない罪を犯した犯人は、不幸を自覚できずに泣く子供をとおして自分の悲惨を自覚しているから。
- b 自分の意に反し罪を犯した犯人は、不条理にも父を奪われた子供同様、結局意志以外のものにあやつられているから。
- c 罪を犯したために死んでいこうとする犯人は、自分で自分をあわれみながら子供に許しを請おうとしているから。
- d 犯した罪を心から悔いる犯人は、何も理解できない子供に対してすら正直に謝っているから。

問九 傍線部 9「甘えられた義理ではないが、しかし許してほしいという意志表示」に関し、文中の意味に沿った具体例としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 不正な政治献金問題で起訴された政治家 A は、報道陣に対して自己弁明を行った。
- b 殺人の罪で捕まった犯人は、警察の取り調べに対して涙ながらに犯行を自白した。
- c 一週間という約束で貸した本を一日遅れで返送してきた友人 C は、電話でそのことを詫びた。
- d 経営困難に陥っていた町工場の社長は、従業員の様々な努力に謝意を表した。

問十 本文における筆者の考えとして適切なものを、次の中から二つ選べ。

- a 純真さに触れると誰もが感動するが、さらにそれは、罪を犯した者の心をも変えてしまう力をもっている。
- b 衷心からの謝罪は、どんな凶悪犯に対してであろうとも、許してあげたいという気を起こさせるものである。
- c 親しい間柄にある者との関係において、日本では特に、背信行為後でなければやったことの重さを自覚しない。
- d 謝る行為は、意識の深奥で不思議な力をもつことになり、精神世界の大逆転を惹起じきすることになる。
- e 総じて日本人は、会社の上司に対してよりも、自分の親に対し罪の意識を感じる機会が多い。
- f 罪の意識は、いかなる場合であろうとも、他人の期待に反する行為を行うことから生じると考えうる。

次の文章は「横笛草紙」の一節で、女院（平清盛の娘建礼門院）の女房横笛に一目惚れした滝口（小松殿平重盛に仕える）が女院御所に出入りする乳母に恋文を託す場面である。これを読んで後の問に答えよ。

乳母、文給はりて、女院の御所へぞ参りける。滝口が心のうち、たとへん方ぞなかりける。乳母、横笛にあひて、しばしは何となき物語などして、「泉殿の立石の陰にて、おもしろき文を拾ひ侍りしが、御身ははまだ若くましませども、源氏、狭衣、古今、万葉、伊勢物語などあそばし給へば、言の葉の品をば、知らせ給ふべし。あそばし分けて御聞かせ候へ」といひければ、横笛、わが身の上とは知らずして、文こまごまと見給へば、筆の立てやうなど、よしある御文と見え侍りける。歌を見給へば、「身は浮き雲の如くなり。梅の立枝の鶯は、岸うつ波の風情して、野中の清水、谷の埋もれ木」と書きとどめ、

人はいさ思ひも寄らじ我が恋の 下にこがれてもゆる心を (A)

君ゆゑに流す涙の露ほども われを思はばうれしからまし (B)

横笛申しけるは、「葛の下葉とは、われはここにありながら、千々に心の通ふことなり。身は浮き雲のやうぞとは、天のよそなる君ゆゑに、心は空にあこがるることなり。梅の立枝の鶯は、声ふりたてて鳴くばかりのことなり。岸うつ波の風情とは、心をくだくらん。野中の清水とは、人にとはれず、ひとりすむことなり。埋み火とは、こがれて物思ふの心なり」とぞ語り給ひける。乳母、このよし聞き給ひて申しけるは、「今は何をか隠し参らせん。横笛殿へ、この文参りて候ふぞや。御返事取りて得させよと申す人の候ふなり。されば人間の習ひは、一樹の蔭、一河の流れを汲むことも、他生の縁と申すなり。ひと村雨の雨宿り、いづれもこの世ならぬ縁とこそ、聞き伝へ候へ。いつぞや小松殿の御使に参り給ひし、滝口殿の、君を一目見参らせ候ふより、御面影の忘れがたくて、わづかに息の通ふばかりにて候へば、人をば人こそ助け候へ。されば小野小町は、人の思ひの末通り、後にはあさましき身となりたるよし承る。殊更わりなきは、この恋の道とこそ申し侍る。中川の逢ふ瀬は知らせ給はずとも、一筆はやすき御事なれば、御返事あそばし給へかし」と。

問一 傍線部1「物語」とあるが、ここではどのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 「源氏、狭衣」などの古典的な物語
- b 最近評判になった恋物語
- c 世間話
- d 初対面の自己紹介

問二 傍線部2「源氏、狭衣、古今、万葉、伊勢物語」とあるが、二重傍線部「小野小町」ともっとも関係の深い作品はどれであるか。次の中から一つ選べ。

- a 「源氏」
- b 「狭衣」
- c 「古今」
- d 「万葉」
- e 「伊勢物語」

問三 傍線部3・4・9の「あそばし」はともに、「する」という意の尊敬語である。ここではどのような動作を表しているか。

次の中からもっとも適切なものを、それぞれ一つずつ選べ。

- a 読む
- b 書く
- c 歌う
- d 遊ぶ
- e 説明する
- f 演技する

問四 傍線部5「わが身の上とは知らずして」とあるが、どういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 自分の書いた手紙とは気づかないで
- b 手紙の宛先が自分とは気づかないで
- c 自分が読むことになると思わないで
- d 自分の問題にしたいとは思わないで

問五 波線部「身は浮き雲」「梅の立枝の鶯」「岸うつ波」「野中の清水」「谷の埋もれ木」「葛の下葉」「埋み火」は、いずれも和歌に使われる表現である。

(I) これらを列挙することで、どのようなことを伝えようとしているか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 恋歌の贈答とまではいなくても、せめて手紙の返事を書いて欲しい。
- b 恋しい気持を伝える方法も見つからず、苦しんでいる自分を知って欲しい。
- c 自分の気持を表現する方法が見つからないので、何とか教えて欲しい。
- d 和歌の教養があることを証明し、文化人であることを認めて欲しい。

(II) また、本文にいう使い方とは同じでないものはどれか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。なお、波線部と

一部異なっている場合がある。

- a わが恋は逢ふをかぎりの頼みだに 行方も知らぬ空の浮き雲
- b 今日よりや梅の立枝に鶯の 声里なるはじめなるらむ
- c 風をいたみ岩打つ波のおのれのみ くだけてものを思ふころかな
- d 埋み火の下にこがれし時よりも かく憎まるる折ぞわびしき

問六 A「人はいさ」B「君ゆゑに」の二首の歌について述べているもののうち、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a Aの「人」もBの「君」も、どちらも手紙を読む相手を指している。
- b Aの「思ひ」もBの「思はば」も、どちらも推量・想像の意味である。
- c Aの「思ひ」もBの「思はば」も、どちらも相手への恋心を表している。
- d Aの「もゆる心」にもBの「涙の露」にも、どちらにも掛詞が含まれている。

問七 傍線部6「一樹の蔭、一河の流れを汲むことも、他生の縁」とあるが、どのような意味か。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a どのような木蔭や川辺でからだを休めるかについては、それほど大きな関係がない。
- b 今生でどのような木蔭や川辺で休むかによって、来世で往生できるか否かが決定する。
- c 今生で同じ木蔭、同じ川辺で休むのも、前世からの因縁で決まっていたことである。
- d 人間は六道輪廻して今生に生を得たが、どのような木蔭や川辺でも休んではならない。

問八 傍線部7「人の思ひの未通り」とあるが、どういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 逢いたかった相手への思いが通いに通じて
- b 逢わなかった相手からの恨みがついに通じて
- c 逢いたくない相手ともついに逢うことになって
- d 逢いたかった相手とはついに逢わないままで

問九 傍線部8「中川の逢ふ瀬は知らせ給はずとも」とあるが、どういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 逢瀬の約束をいまずぐにしないでいいから
- b いつ逢瀬を約束したかは私に言わなくていいから
- c 逢瀬の仲介は私に任せてくれれば大丈夫だから
- d 逢瀬を仲介しようと思わなくていいから

三

次の文章を読んで後の問に答えよ。なお、設問の関係上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

或^ル問^{ヒト}、陶淵明^ヲ為^ス詩人之宗^ト矣^{ナリヤ}。諸^ヲ曰^ク、爾^リ。尽^ク善^ヲ、尽^ク美^ヲ乎[。]曰^ク、未^ダ也^シ。

其事^ヲ若^ク何[。]曰^ク、詩格^ハ万端^{ナリ}。陶氏^ハ只^ダ長^{ズル}冲澹^ニ而已[。]豈^ク尽^ク美^ヲ哉[。]蓋^シ文辞^ハ

施^ス于野旅^ニ、窮寒^ニ者易^ク、敷^ク于官閣^ニ、富盛^者難[。]元亮^者衰晋^之介士^也。

故^ニ其詩^ニ清淡朴質^{ニシテ}、只^ダ為^ス長^{ズト}一格^ニ也[。]不^カ可^ラ言^フ全才^ト矣[。]又^タ元亮^之行、

吾^ホ猶^リ有^ル議^{スルコト}焉[。]為^{リテ}彭沢^ノ令^ト、纔^{カニ}数^ニ十日^{ニシテ}而去^ル。是^レ為^リ傲吏^ニ。豈^ダ大賢^之

拳^{ナラン}乎[。]何^ソ也[。]東晋^之末、朝政^ニ顛覆^{セリ}。況^{ンヤ}僻^ク县^ヲ乎[。]其官吏^可測^ス矣[。]元亮

寧^ソ不^ラ先^ニ識^ラ哉[。]不^レ受^フ印[。]已[。]受^ク、則^チ令^ベ彭沢^ノ民^見仁風^於已^ニ絶[。]聞^ク德教[。]

於^テ久^ク亡[。]豈^レ不^レ偉^{ナラ}乎^哉。夫^レ一^ノ县^清、而^{シテ}一^ノ郡^学焉[。]一^ノ郡^学、而^{シテ}一^ノ国^易教[。]

焉[。]何^ヲ知^ル天下^ノ四海^不漸^ス于化^乎。

〔注〕○介士―節操の堅い人物。 ○彭沢令―彭沢は現在の江西省にある地名。陶淵明はその県令であったが、凡庸な上役に頭を下げることに耐えられず、辞職して郷里に帰った。

問一 傍線部1「其事若何」の説明としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 「或ルヒト」に、「未ダシ」という自分の判断についての意見を求めている。
- b 「或ルヒト」に、「未ダシ」という状態をどう受け止めれば良いか、助言しようとしている。
- c 「或ルヒト」が、「未ダシ」という答えに異論を差し挟もうとしている。
- d 「或ルヒト」が、「未ダシ」という評価の理由を問うている。

問二 次の各選択肢中の傍線を付した漢字のうち、傍線部2「而已」と同じ意味を表すもの一つ選べ。

- a 上有好者、下必有甚焉者矣。
- b 吾有知乎哉。無知也。
- c 非能好先王之樂也。直好世俗之樂耳。
- d 三人行、必有我師焉。

問三 傍線部3「敷于官閑富盛者難」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 朝廷への出仕や富裕な暮らしを詩文で表現しようとしても、優れた作品にはなりにくい。
- b 身分も高く財力もある人は、とかくねたみそねみを受けるので、うっかりしたことを言えない。
- c 朝廷の高官や金持ちに、道になかった生き方を説いても、その言葉は受け入れてもらえない。
- d 権力や富を手に行っているような人々の中からは、真の詩人はなかなか出てこない。

問四 傍線部4「其官吏可測矣」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 彭沢県の役人たちには、陶淵明が役人生活に耐えられないだろうと推測できたはずだということ。
- b 彭沢県のような田舎の役人に、大した人物などいないことくらいすぐに分かるはずだということ。
- c 王朝が弱体化し、政治が乱れつつあることは、地方の役人にもうすうす察知できたはずだということ。
- d 下吏たちが、よそ者の陶淵明のことを快く思っていないことは、感じ取れたはずだということ。

問五 傍線部5「不受印、已」とはどういうことか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

- a 県令にならなければ良かったと思っても、もう手遅れだということ。
- b はじめから県令にならなかつたならば、話はそれまでだったということ。
- c いったん県令になってしまった以上、もうどうしようもないということ。
- d 県令になっただけで、それ以上のことを望んではいなかったということ。

問六 傍線部6「令彭沢民見仁風於已絶、聞德教於久亡」に返り点を施した次の選択肢の中から、もつとも適切なものを一つ選べ。

- a 令_レ彭_レ沢_レ民_レ見_レ仁_レ風_レ於_レ已_レ絶_一、聞_レ德_レ教_レ於_レ久_レ亡_一
- b 令_レ彭_レ沢_レ民_レ見_レ仁_レ風_レ於_レ已_レ絶_一、聞_レ德_レ教_レ於_レ久_レ亡_一
- c 令_レ彭_レ沢_レ民_レ見_レ仁_レ風_レ於_レ已_レ絶_一、聞_レ德_レ教_レ於_レ久_レ亡_一
- d 令_レ彭_レ沢_レ民_レ見_レ仁_レ風_レ於_レ已_レ絶_一、聞_レ德_レ教_レ於_レ久_レ亡_一

問七 傍線部7「何知天下四海不漸于化乎」の口語訳として、もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a どうして国全体がだんだんと教化されてゆくことが分かるのか。
- b どうして国全体がだんだんと教化されてゆかないのであろうか。
- c 世の中がしだいによくなってゆくことなどあり得ない。
- d 世の中がしだいによくなってゆかないことがあるうか。

問八 次の中から陶淵明の作品ではないものを一つ選べ。

- a 歸去来辞
- b 五柳先生伝
- c 赤壁賦
- d 飲酒

